

多様な価値観伝える

陽明高・末吉さん
ラオス訪問を報告



ラオス派遣を報告する末吉末空さん。浦添市大平の県立陽明高校体育館

【浦添】浦添市の県立陽明高校(知名朝次校長)でこのほど、1年生を対象に県主催のJOCA(青年海

外協力協会)沖縄出前講座が開かれた。おきなわ国際協力人材育成事業(県主催)でラオスに派遣された末吉末空さん(2年)の報告会もあった。末吉さんは現地での触れ合いや視察を通して人生観が変わったと紹介し、「一つの視点だけで、幸せや物事の価値観を決めつけてはいけなく、強く感じた」などと語った。JOCA沖縄の大山千智さんは「国際協力って?」と題してクイズや写真を交えて活動を紹介したほか、普段生活する中での世界とのつながりや国際協力などについて講話した。

末吉さんは「『幸せ』ってなに?」と題して発表した。ラオスが発展しにくい現状について「医療、インフラ、不発弾、貧困、教育の問題が連鎖している」と指摘。一方で「ラオスの人々は貧しくても、生き生きと幸せそうに暮らしている」と話した。

その上で現地で感じた地方病院と大学病院との格差に関して、「将来、手が届かないところまでサポートできる医療人になりたい。開発途上国へ行って自分ができることをしたい」と夢を語った。

末吉さんの報告を聞いた銘刈優花さんは「国際協力をする理由が分かった。事業に参加することも視野に入りたい」と話した。

(中川廣江通信員)